

中国人民大学经济学院经と一橋大学が中日学生交流会を開催

(2009-11-16) 作者: 中国人民大学经济学院

中国人民大学经济学院と一橋大学は11月1日午後、明德主楼・728 经济学院大講堂で、中日学生交流会を開催した。一橋大学より清水啓典教授、小川英治教授、三隅隆司教授が、中国人民大学经济学院より陳建教授が出席し、挨拶した。中国人民大学经济学院の国際経済と貿易専攻の学生(2007年入学)と共同シンポジウムのために訪中した一橋大学の学生代表が交流を深めた。



まず、清水教授、小川教授、三隅教授、陳建教授が挨拶し、交流会の実施方法について説明した。

続いて、日本人学生23人と中国人学生100人は6つのグループに分かれてディスカッションを行った。その後、5ヶ所の教室に分かれて更にディスカッションを行った。各グループは、『アジアの通貨制度について』、『債券市場の形成について』、『日本の自動車産業の発展について——トヨタを例に』、『金融規定と銀行の政策について』、『若手労働力の都市部流入にみる農村経済開発について』、『大学生の就職問題について』などをテーマに、活発な意見交換を行った。



グループディスカッション終了後、全学生が明德主楼728会議室に戻り、グループごとにディスカッションの成果を発表し、日本人学生の代表として川瀬力さんが総括した。

今回の中日学生交流会の開催により、双方の学生が相手への理解を深めることができ、学術的に意義があるだけでなく、中日友好にもつながる実り多い交流会となった。

(編集: 王宝奎)